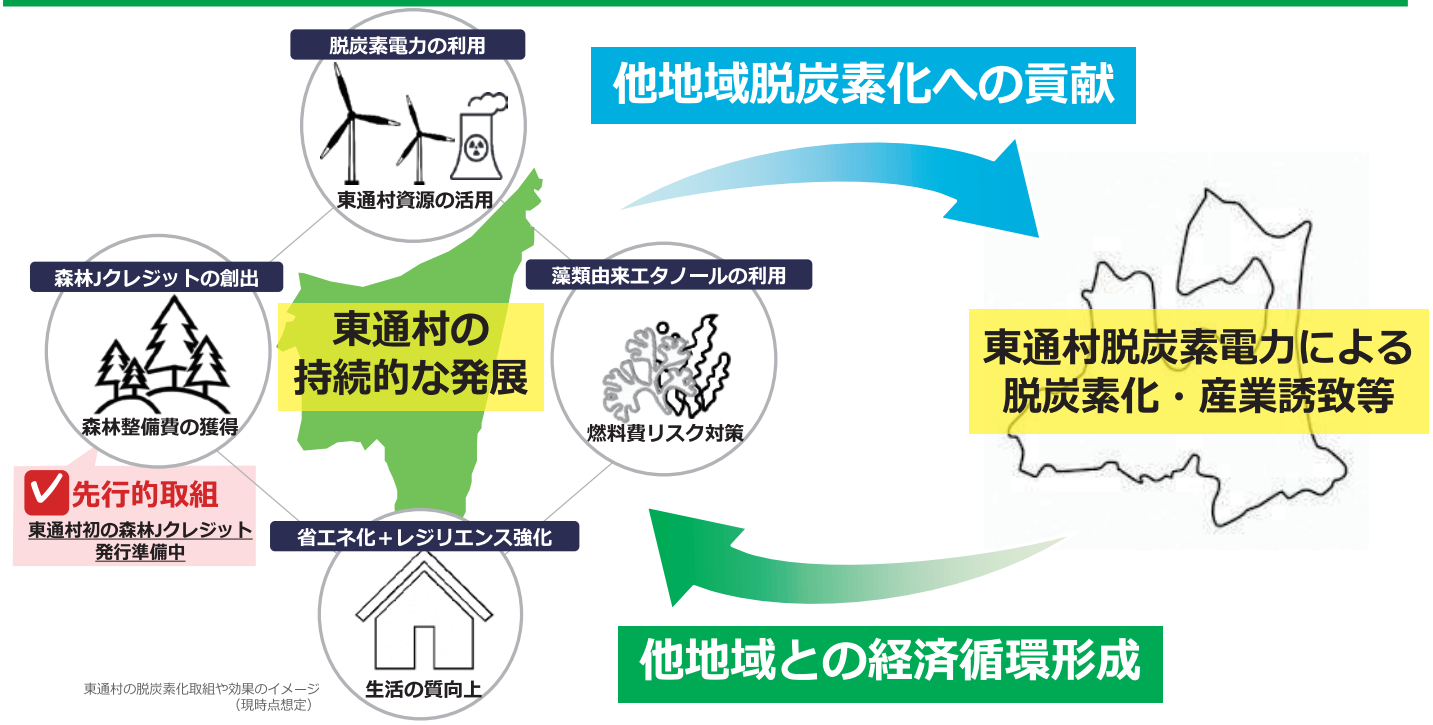
「原子力と地域資源を活かした再エネの両立」による東通村の発展

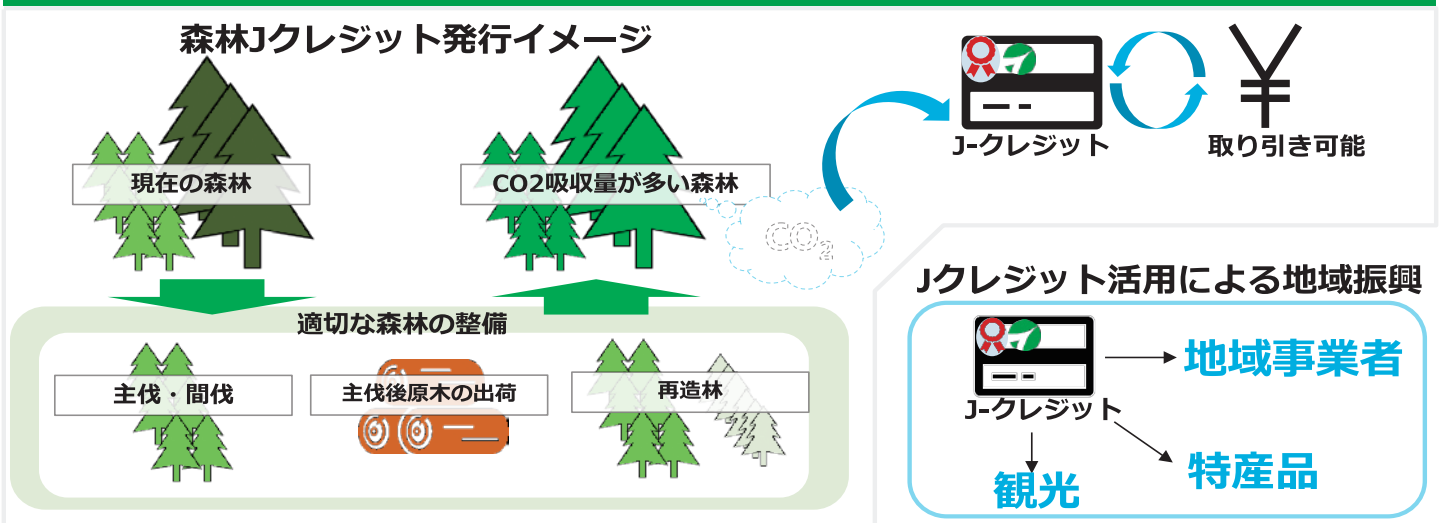


原子力と再生可能エネルギーの両立を目指す

第一回東通村脱炭素推進協議会では東通村が目指す将来像として「原子力と再生可能エネルギーの両立」による東通村の持続的な発展を目指すこととしました。

脱炭素電源である原子力発電に加え、本協議会では、豊富な風力資源を活用し、村内だけではなく他地域の脱炭素化に貢献することで、他地域と連携した脱炭素化の取り組みによる経済循環の形成を目指します。

この他、東通村の森林を整備することで、二酸化炭素の吸収量を増やし、吸収した二酸化炭素量を有価で取引できる森林Jクレジットの活用についても、既に東通村では準備を進めており、来年度中には東通村初の森林Jクレジットを発行予定です。また、藻場を造成し、養殖した藻類からエタノールを抽出することで、漁業等の燃料として利用するといった取り組みも検討します。

東通村の脱炭素化に向けては、住宅の省エネ化や太陽光発電、蓄電池の導入も検討します。これにより、住宅のエネルギー費用低減や災害時等の対策強化（レジリエンス強化）に繋がることを期待しています。

2025年度中　東通村初の森林J-クレジット発行予定